

論文の内容の要旨

論文題目：中国都市商業銀行の成立と経営 1995-2006

氏 名：門 閣

本論文の課題は、1995 年以降、中国の都市部に数多く設立された都市商業銀行の成立過程と経営の実態を考察対象として、国有銀行によって支配されてきた中国の金融セクターにおいて、地域の金融が実体として成立しうるものなのか、そして成立しているとすれば、それがどのような仕組みで金融仲介機能を実現し、地域経済においてどのような意味をもつものなのかを実証することにある。このような課題に対して、本論文では、以下 3 つの問題意識に即して検討を行い、既存研究と異なる分析枠組みのもとで実証精度の向上や新たな事実の提示を通じて中国金融研究の水準の底上げを目指したい。

第 1 に、マクロ分析や大規模銀行研究（国有商業銀行、株式商業銀行）を中心とした先行研究で描かれる中国金融システムの構造的特徴を、都市商業銀行といった小規模銀行のミクロな視点から捉えなおすことによって、再検討する。

第 2 に、政府のコントロール下にある都市商業銀行の経営実態を定性的定量的に明らかにすることによって、金融発展と銀行経営のダイナミズムにおける政府の役割と機能を再評価する。周知のように、中国の金融システムにおいては国有銀行の支配的構造が維持されおり、政府によるコントロールが依然として強い。この点は、本論文が分析対象とする中国の都市商業銀行も例外ではない。

第 3 に、中長期的分析が主流になりつつある近年の中国経済研究における潮流の変化に応えて、地域レベルにおける金融機関の成立過程と経営実態を検証することによって、経済主体が依存する地域経済の構造と特徴を明らかにすることである。

本論文の具体的な構成は以下の通りである。第 1 章では中国の銀行システムにおける都市商業銀行の位置づけを検討し、地域金融機関の視点から中国銀行システムの構造的特徴を再検討する。第 2 章から第 4 章までの第 1 部では、都市商業銀行の成立と経営をテーマに、筆者が独自に収集作成した都市商業銀行のデータベースを用いて、都市商業銀行の成立過程や所有と経営の関係および経営の効率性について実証的に検討する。第 5 章から第 7 章までの第 2 部では、浙江省、湖北省、四川省の都市商業銀行を取り上げ、地域金融市场における都市商業銀行の特徴や、経営システムの構築および外資の導入について事例的に検討する。

各章の内容により詳しく触れると、第 1 章では、公式のマクロ統計を用いて中国の銀行システムにおける都市商業銀行の位置づけを明らかにし、その歴史過程の分析に加え、市

場構造と銀行の組織構造の両面から検討を行う。また、市場構造の側面から銀行業における都市商業銀行の預金と貸出金の特徴を検討し、都市商業銀行の位置づけと役割を明らかにする。そして金融市场における地域分断を実証し、そうした市場構造に依存する銀行の組織構造を検証する。

第2章では、都市商業銀行の成立過程を、その前身である都市信用社の発展史から検討し明らかにする。まず、都市商業銀行に転換した都市信用社の実態を検討し、都市信用社の類型を分析する。そして類型化した2タイプの都市信用社について、それぞれ都市商業銀行に転換する過程と経営構造の仕組みを詳細に分析し、都市信用社の歴史的役割を検証する。こうした作業によって、中国における地域金融機関の成長過程に見られる政府と金融機関の間に存在した複雑な関係を明らかにし、都市商業銀行の成立とその経営実態を解明する重要な手がかりを提示する。

第3章では、先行研究により提起された地方政府の関与は銀行の経営にどのような影響を及ぼしているかという課題に対して、定量的な検証を行う。行政主体と株主という二重の身分をもつ地方政府は、国有企業の民営化の場合とは異なり、増資や役員の派遣などを通じて都市商業銀行に対するコントロールを強化している。本章では、このコントロールの強化が銀行の経営にどのような影響を与えており、そして都市商業銀行の支配的な株主である地方政府にどのような行動が見られるか、といった所有と経営の問題について定量的な分析を試みる。

第4章では、都市商業銀行の経営構造と経営効率性について厳密な計量分析を試みる。確率的フロンティア費用関数を用いて銀行の費用非効率性を計測する。そのなかで、1都市内に営業範囲を限定する都市商業銀行の経営に規模と範囲の経済性があるのかどうかを検証する。またこうした検証を通じて、政策上のインプリケーションとして中国の銀行部門改革に重要な政策判断材料を提供する。

第5章からの第2部では、浙江省、湖北省、四川省の都市商業銀行の事例を用いて、地域金融市场における都市商業銀行の経営実態を明らかにする。まず第5章では、地域金融市场における都市商業銀行の預金・貸出金シェアの推移を通じて、地域金融市场の特徴と都市商業銀行の位置づけを明らかにする。また、第1章で論じた金融市场の地域的分断について、立地条件や貸出金利の分析を通じてそれを具体的に検討する。そしてこうした検討を踏まえて、都市商業銀行の規模拡大と銀行経営業績の関連性を分析し、地域金融機関成立のメカニズムを明らかにする。

第6章では、アンケート調査の結果を通じて、都市商業銀行の経営者の具体像と経営の具体的な手法を明らかにする。そして、銀行年報などから得られる情報を用いて銀行経営

者の交替パターンを分析し、従来の研究では全くタッチできなかった銀行の融資行動やリスクマネジメント及び人事管理までのアンケート調査の結果を用いて都市商業銀行経営の地域性を明らかにする。

第 7 章では、外資を導入した寧波銀行と南充市商業銀行の事例を取り上げ、外資導入の過程を明らかにし、両行の経営システムの比較を通じて外資導入に成功した地方都市の都市商業銀行の経営構造を明らかにする。この点については、既存の研究では、複数の外資導入地域の間に存在している経済格差を十分意識せずに外資導入の効果を検討している。しかし例えば、北京、上海などの大都市と地方都市では、外資導入を可能にした要因に相違があることが予想される。本章ではその問題点を指摘した上で、外資導入の前後における財務構造とガバナンス構造の変化を比較して、都市商業銀行の経営における地域間および銀行間の差異を指摘する。

以上のように、本論文は、都市商業銀行の成立と経営に関する歴史や金融市場構造、地域経済、そして銀行の所有・統治、さらに外資の影響といった点に注目して検討するものである。その分析の重点は主にミクロレベルにおける銀行の経営実態の解明にあつたが、金融発展のダイナミックスを理解するためにマクロの側面にも及んだ。こうした分析を通じて、従来の研究で検討できなかった地域金融からみた銀行経営の実像について、金融市場の地域分断、政府の関与、地域経済の発展不均衡の 3 点からその特徴と様相を明らかにした。

第 1 に、本論文では、金融機関の視点に立って貸出金利の差および金融行政のヒエラルキーから金融市場の地域分断を実証した。これによって、国有支配を中心とする中国の金融セクターにおいても地域金融機関が成立しうる市場条件を明示した。

第 2 に、インフォーマル金融として論じられてきた民間金融の発展について、政府の役割に注目することによって、民間金融の成長における政府の役割を見直すことができた。政府の各種組織をネットワークとした金融活動は都市商業銀行の発展をもたらし、また不良債権の処理においては政府の役割が依然として大きい。ただし、政府による直接の株式保有は多くの場合が非効率的である。

第 3 に、中国経済における大きな地域格差は、一般的に言われるような経済発展地域と未発展地域の間だけではなく、省内における中心都市と地方都市の間にも存在する。銀行の立地によって、政府、そして銀行の利害関係者、経営側に求められる役割は様々である。本研究が明らかにした中国都市商業銀行の経営組織の成長は、域内の金融発展に伴いながら地域的な利害の調整を進めた結果であり、これは市場が分断された状況下における中国の地域金融の実像である。